



~Column~

海外トラブル

国際本部国際教務課 河野 公美

■自分の身は自分で守ろう！！

海外に行くと日本では予想できない事件・事故やトラブルに巻き込まれることがあります。「置き引き・スリ」、「性犯罪」、「ドラッグ（麻薬）」など数え上げるときりがありません。下の表は犯罪認知件数を主要国で比較したもの^{注1)}です。

国名	犯罪率 %	殺人 件/10万人	強姦 件/10万人	強盗 件/10万人	麻薬 件/10万人
日本	1.60	0.44	1.52	3.99	16.81
韓国	3.25	2.31	13.34	5.10	12.61
中国	1.28	1.22	2.84	24.59	-
タイ	2.22	0.79	8.37	112.30	174.81
インドネシア	3.71	1.37	1.25	52.79	-
オーストラリア	7.44	1.43	82.51	98.50	329.19
ニュージーランド	10.24	1.14	32.27	59.93	313.20
イギリス	10.39	1.72	27.04	183.83	334.11
フランス	7.40	1.82	15.16	53.66	186.32
ドイツ	7.62	0.88	9.82	64.98	308.59
カナダ	8.31	1.86	68.28	94.40	112.50
アメリカ	8.49	5.82	30.53	147.74	624.03

国連統計(2008年)：犯罪傾向および刑事司法制度

この表からわかることは、日本と比べ欧米諸国の犯罪件数が桁違いであることです。安全と思われてきたオーストラリアやカナダでは強姦が多く発生しています(特に都市部)。イギリス、アメリカ、タイでは強盗が目立ちます。また、アメリカでは、殺人や銃による犯罪が頻発しています。自衛のために大学内に銃を持ち込むことを許可している大学もあります。その方針については各大学のHPで確認することができます。

誤解してほしくないのですが、「海外は危ないから行かない方が良い」と言っているのではありません。逆に、どこにいても(日本でも)「自分の身は自分で守る」という気持ちを持ってほしいのです。犯罪というのは、往々にして、「夜道を1人で歩く」、「行っは行けないといわれている場所に行く」、「目立つ服装をする」、「高価なバックやアクセサリを身につける」など自分が原因になって起こる場合が多いのです。こういったトラブルに巻き込まれないためには、地元の人と同様の服装をし、危険な地域や時間について地元

の人のアドバイスを聞くのが一番です。また、見知らぬ人に飲食物(お酒・コーヒー・クッキーなど)を勧められることがあります。睡眠薬が入っている場合もありますので絶対に口にしないでください。外務省の海外安全ホームページ(<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)では、「海外安全虎の巻」「海外安全劇場」などで日本人が海外で巻き込まれやすい様々なトラブル事例を紹介しています。



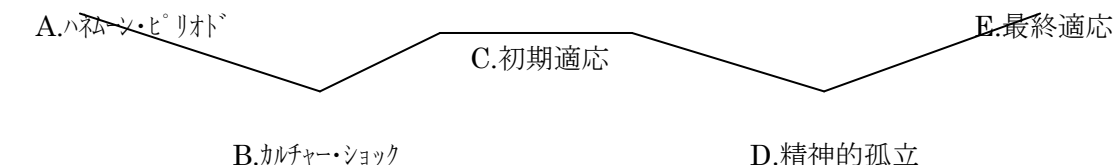
「ホテルでチェックイン中に荷物を置き引きされた」など自らの不注意によるトラブルから、「(国民性から)写真撮影を嫌う人を無断で撮影したために撮影料を払わされた」、「足を組んで話をしたら相手に不快感を示された」など宗教や習慣の違いによるトラブルまで多種多様なケースが紹介されています。初めて海外に出かける方も、長期で留学される方も出発前に是非このページをチェックしてみてください。

また、留学される方は、留学先の大学のセキュリティに関するHPを事前にチェックしてください。キャンパス・ポリスが家まで歩いて送ってくれる「エスコート・サービス」など大学の教職員も利用している様々なサービスの情報を得ることができます。また、実際にキャンパスで起こっている犯罪の情報を提供している大学もあります。これらの情報は、留学直後のオリエンテーションやそこで配布される留学生用のハンドブックにも盛り込まれています。「これくらい大丈夫」と油断せず、是非活用するように心がけてください。

■心の健康は大丈夫？

カルチャーショックとは？^{注2)}

異なる文化環境にある程度の時間滞在すると、誰でもある種の不適応状態に陥ります。「カルチャーショック」には次の5つの段階が見られます。



A. ハネムーン・ピリオド

新しい環境の中で、期待に胸がわくわくし、何事にも積極的に挑戦する。新しいものはすべて興味深く、おもしろい。相違点よりも類似点の方が目につく（どこに住んでいても人間はみな同じである等）。

B. カルチャー・ショック

住居・交通手段・買い物・言葉など新しい問題が発生する。新しい文化や言葉を理解しようとして継続的な努力を続けてきたので精神的疲労が蓄積する。類似点よりも相違点の方が目につくようになる。小さなトラブルがまとまって大きな悩みとなり、解決の見通しがたたなくなり悩む。

C. 初期適応

住居や買い物といった日常的なことがもはや大きな問題ではなくなっている。まだ、言葉は流ちょうではないが、考えや感情は充分伝えられる状態。たいていの問題には対応できる。

D. 精神的孤立

長期間家族や親しい友人と離れていることに孤独を感じる。自国語でのように自分の気持ちや感情を思うように伝えられないことを感じ、それがフラストレーションを引き起こし、自身の喪失につながる。この段階にとどまる人もいる。

E. 最終適応

ルーティン（仕事や学校）が定まる。滞在している国の習慣や食べ物を受け入れられるようになる。その国でできた友人・仲間とその国の言葉で話すことが苦でなくなる。

リバース・カルチャーショック（リエントリー・ショック）とは？

帰国後のことに触れている書物はあまり多くありませんが、リバース・カルチャーショックは統計的に見ても複雑で困難な経験です。留学先の環境に溶け込みやすい人ほど帰国後のショックが大きいと言われています。リバース・カルチャーショックにも5つの段階（A. 適応状態、B. 帰国に対する不安感、C. ハネムーン・ピリオド、D. リバース・カルチャーショック、E. 再適応）があります。



最後に私自身の留学経験から・・・【留学を成功させるための4つの秘訣】

- ① 程度の差はあれ誰にでもカルチャーショック、リターン・カルチャーショックがあることを覚悟せよ！
- ② 郷に入っては郷に従え！→日本にいる時のようにすべて順調ではない。行儀しないこと
- ③ 人と自分を比較しないこと！→比較してもずるずる落ち込むだけ。自分に自信を持って！
- ④ 日本人同志も悪くない！→たまには、日本食・日本語会話でリラックスするのも良い



国際本部は、皆さんの安全で楽しい海外生活・留学生生活を応援しています

(問い合わせ先) Tel: 011-706-8053 E-mail: jryugaku@oia.hokudai.ac.jp



注1) 服部まこと「第27回JCSOS地区セミナー『海外派遣・研修における危機管理セミナー（北海道地区：北海道大学）』「渡航前危機管理オリエンテーションとは」（2014.11.20）より抜粋

注2) Kohls, R.(1979). Reaching Consensus. In I D. S. Hoopes & P. Ventura (Eds). Intercultural Sourcebook: Cross Cultural Training Methodologies (P.160) LaGrange Park: Intercultural Network.